

2025年度 事業計画会議開催報告 「会話がはずみ実りも多く」



2025年度事業計画会議が3月28日、CANVAS谷町で開かれ、オンラインを含めてアソシエーターや会員の35人が参加しました。永井事務局長から、2026年度事業計画の重点方針と、2025年度決算と26年度予算の見通しについて報告があり、1. 社会的孤立という課題の解決 2. 巨大地震などにそなえた包括的な災害支援、防災体制 3. 各世代のボランティア活動への参加障壁を除く(高校・大学との連携やアクティブシニアの参加を高めるプロジェクト) 4. 市民感覚に基づく自由な発信と対話によるオピニオン力を鍛える 5. ボランティアと職員の協働により成果を出す組織改革という5つの重点方針が示されました。一方、協会の財政問題では、25年度は、遺贈寄付や60周年記念寄付などで黒字になりそうですが、26年度は247万円の

赤字が見込まれています。

また、「持続可能な可能なボラ協」を目指した「みらい会議」からは、会議時間の短縮や資料のペーパーレス化などの成果があったものの、職員の高齢化に対応した若い人材の確保など課題が多く残されていることが報告されました。

午後は、各ユニットやチームのプレゼンテーションとブースタイム。途中、火災報知器が鳴り消防隊がやって来るハプニングもありましたが、世代やチームの壁を超えて話し合う場になったブースも多く、会話がはずむ実りの多い会議でした。(神野)



万博ボランティアの熱意を次へ。 公式LINE配信中!



公式LINE「万博ボランティア★ネクストチャレンジ」の取組みでは、2025年大阪・関西万博のボランティア活動に参加した人に、万博後も地域貢献・社会貢献活動に参加し

てみたくなるような情報提供を目指して、2025年12月からLINEでの情報提供を始めました。公式LINEの友だち登録は239(3月31日時点)。2027年3月までの期間限定で、ボランティア活動情報をプッシュ型でLINEへ届けます。

実は、この取組みが生まれたのは、協会が他団体と一緒に「SDGs万博市民アクション」(大阪・関西のNGO/NPO12団体が結成)の「市民参加・教育分科会」に参画しているからです。アソシエーターの小林義彦さん・華房ひろ子さん・松居勇さん・永井美佳と一緒に活動しています。

皆さんの知り合いに、万博ボランティアの経験者がいたら、「こんなあるよ!ボランティア募集情報がLINEに届くらしいで～」とぜひご紹介ください。(永井)



編集後記▶CANVAS NEWSも新しくなりますが、私自身もこの春、長年勤めていた職場を退職し、新しい勤め先が変わります。不安もありつつ、持ち前の「なんとかなるさ精神」でわくわくドキドキ楽しみながら、自分のできることを実行していきます。いくつもなっても新しいことに挑戦できることに感謝!! (西江)

発行 社会福祉法人 大阪ボランティア協会
〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2F
市民活動スクエア「CANVAS谷町」
電話 06-6809-4901 url https://osakavol.org/
メール office@osakavol.org
2026.4.20

CANVAS NEWS

CANVAS=Civic AND Voluntary Action Square

キャンバス・ニュース

「キャンバス・ニュース」は、市民活動スクエアCANVAS谷町と大阪ボランティア協会の「今日」をお届けするマガジンです!



[CONTENTS]

- 1 社会課題の解決に向き合うNPOインタビュー
 - 2 大阪ボランティア協会 SNS NEWS
 - 3 障がいがある子どもや医療的ケア児と家族、支援者のための防災セミナー／今日からはじめるAI入門講座
 - 4 事業計画会議報告、万博ボランティア★ネクストチャレンジ
- 狭み込み 協力感謝

CANVAS NEWS「リニューアルのお知らせ」

2026年4月より、「CANVAS NEWS(キャンバスニュース)」の発行が年6回から年3回になります。

2013年に大阪ボランティア協会が現在のCANVAS谷町に拠点を移したのを機に

CANVAS谷町のことをいろんな人知ってほしいとの思いから、

「THEボラ協(通称ザボラ)」から「CANVAS NEWS」と改めました。

「ボラ協」だけでなく、「CANVAS谷町」に関わる人や団体の情報を発信することも大事にしてきました。10年以上が経過し、ここで一度、誌面の見直しや新しい企画を編集委員会の中でじっくり検討する場をもち、より魅力のある誌面を作りたいという思いから発行数を減らす決断をしました。

どうぞ、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

これからのCANVAS NEWSは

- ✓年3回発行(春号/夏号/秋・冬号)
- ✓新しい企画も登場します(お楽しみに)
- ✓柔軟な発想で読んで良かったという誌面を目指します

CANVAS NEWS 編集委員一同

TOPICS

社会課題の解決に向き合うNPOインタビュー

新規登録団体

大阪家庭少年友の会 牛島幸子さん

1973年に大阪家庭裁判所の依頼を受けて設立された、少年(少女)の立ち直りを支援している民間団体です。会員はすべて、家庭裁判所の調停委員やその経験者など、市民の立場で活動する人々で構成されています。

主な活動には、保護者がいない少年の親代わりとして審判に付き添う「付添人活動」、生活に必要な物品を提供する「援護活動」、公園清掃などを通じて社会とのつながりを支援する「美化・清掃活動」、福祉施設等でのボランティアを通じて心の育ちを支援する「社会奉仕支援活動」、大学生が年齢の近い兄・姉のような立場で学習支援や相談相手となる「学生ボランティア活動」、勤労意欲を育てる「就労支援活動」があります。

大阪の少年は、虐待やDV、いじめ、貧困など深刻な心の傷を抱えている割合が多いと感じています。近年は、いわゆる闇バイトから特殊詐欺や強盗の手先になるトラブル

社会課題の解決に向き合い、活動する団体にインタビューをしました。より詳しい内容を協会ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。→



援護部会で少年たちに配布する援護バック

や、インターネット上の安易な性に関する動画や写真の投稿に関するトラブルなど、新たな課題への対応にも取り組んでいます。活動の性質上、広くPRすることは難しい面もありますが、活動を知った団体や個人から賛同や支援をいただいています。(稲田)

大阪ボランティア協会 SNS NEWS

CANVAS NEWSのリニューアルにあわせて、SNSのハイライトをお届けする新コーナーがスタートしました！
 普段の誌面では伝えきれない活動の裏側やイベント情報をネット上でも発信していますので、
 「普段SNSあまり見ないわあ…」と思っているそこのあなた！ぜひSNS投稿も覗いてみてくださいね。

みなさん、たくさんの“イイね！”ありがとうございます

記念すべき第1回目は、Facebookで特に反響が大きかった2つの投稿をピックアップ。
 「イイね！」で日々の活動を応援して下さる皆さまへ、感謝の気持ちと共にお届けします。

【投稿日】

2026年1月5日

2026年最初の投稿は、毎年恒例の新年互例会。61周年を迎えたボラ協のスタートに、81件もの「イイね！」で温かいエールをいただきました😊



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

本日、毎年恒例の新年互例会を行いました。昨年11月に創立60周年を迎えた大阪ボランティア協会です

【投稿日】

2026年1月10日

十日戎では堀川戎神社へ。今年の活動の飛躍を祈願したこちらの投稿にも、38件の「イイね！」をいただいています♪



十日戎の堀川戎で、福笹をいただきました！一年の商売繁盛と、活動の実り、よいご縁がありますように！

👍 38 🗨️ 3 🔄

これからも、SNS ならではの近況報告をお届けしていきます。

ぜひアカウントを覗いていただき、皆さんの「イイね！」と一緒にボラ協の活動を盛り上げましょう😊

SNSのウラ話〈第1回〉



@osakavol

続いては、Instagramの裏側に迫ります。

今回からスタートする特別企画「SNSのウラ話」では、“中の人”である、学生広報部「ゆにあっぷ」の長田千裕さん、堀内 薫さんをスペシャルゲストにお迎えします！

運用メンバーならではのウラ話を、全3回の連載でお届け予定です。第1回目は、お2人がゆにあっぷでの活動を始めたキッカケと、気になる「企画のウラ側」についてお聞きしました！

—まずはお2人が「ゆにあっぷ」の活動を選んだ理由を教えてください。参加しようと思った決め手は何だったのでしょうか？

（堀内さん）私は通っている龍谷大学のボランティア・NPO活動センターで、広報活動を行っています。「ゆにあっぷ」に参加したのは、龍谷大学の学生以外にも同年代や社会人の人に向けた広報活動に取り組んでみたいと思ったからです。



—Instagramでは、活動報告をアップしていますよね。ゆにあっぷの活動は「毎月何回」などの決まりがあるのでしょうか。

（長田さん）毎月の例会は決まっていますが、活動頻度や内容はそれぞれのメンバーに合わせて調整しています。大学生は授業にアルバイト、遊びで大忙しなので、コンスタントに活動するのが難しいことが多く、現状はかなりゆるく活動していますね。とはいえ、「広がれボランティアの輪」連絡会議からオンライン講師に呼ばれるなど、少しずつ活動の幅が広がっています。

—企画出しはいつもどのように行っていますか？

（長田さん）Instagramの色々な投稿を見て「これ、ゆにあっぷでやりたい！」と思ったものを、提案するといった感じです。各メンバーの関心はちょっとずつ違うので（広報そのもの、中間支援、デザインなど）みんなでアイデアを持ち寄っています。

—ありがとうございます！Web版では「大学とのコラボレーション投稿」についてさらにお聞きしています。ぜひボラ協HPでお楽しみください。第2回は学業とボランティア活動を両立する大学生の「活動のウラ側」編。リアルなSNSのウラ話をお届けします！次回もお楽しみに🌟（シュナイデル）

障がいがある子どもや医療的ケア児と家族、支援者のための防災セミナー



2月28日、近畿労働金庫の「働く人と子どもの明日を応援プロジェクト」との共催で、「障がいのある子どもや医療的ケア児と家族、支援者のための防災セミナー」を開催しました。

会場参加とオンライン参加をあわせて42人の参加がありました。

講師は、一般社団法人福祉防災コミュニティ協会代表理事の湯井恵美子さん。能登半島地震の事例も交えなが



ら、障がいのある子どもや医療的ケア児、その家族が災害時にどのような状況に直面するのか、そして日ごろからどんな備えができるのかを、具体的にわかりやすくお話いただきました。

お話の中では、指定避難所に行くことだけでなく、ひとりひとりの状況にあった避難場所を選ぶことが大切なこと、また、ふだんから地域や支援者とうつながっておくことが大切だという点を参加者のみなさんと再確認しました。

アンケートでも、「頼っていい、一緒に助かろうという言葉に勇気をもらった」「備蓄を見直したい」「地域との関係づくりの大切さを改めて感じた」などの声が寄せられました。（青山）



今日からはじめるAI入門講座 その作業、AIに任せてみませんか？



3月24日、CANVAS谷町にて、NPOスタッフ向け「今日からはじめるAI入門講座—その作業、AIに任せてみませんか？」を開催しました。同日に、午前と夜間の2回開催で、計62人の参加がありました。

NPOや中間支援組織、行政など、日頃AIの活用にお悩みの人たちが参加されました。

講師は、赤メガネが印象的な、NPO法人チュラキユーブ代表理事・大阪国際工科大学准教授の中川 悠さん。興味深い自己紹介の後、ChatGPTやGemini、NotebookLMなどの日進月歩の生成AIで、今どんなこ

とができるのか、楽しい実演が続きました。音声対話の指示で、イベント案を瞬時に20個も提案したり、あっという間に協会のテーマソングを書き上げたり、実に様々な機能のデモンストレーションに、驚きの連続でした。AIが生成した、中川さんが楽しく踊る動画の紹介には、思わず拍手も。他にも資料作成からゲームやアプリの作成、上手に使う方法や著作権まで盛りだくさんの2時間でした。

参加者からは「楽しく分かりやすかった」「AIが身近に感じられるようになった」「もっと使いこなしたい」といった前向きな感想が寄せられました。

※この原稿は、生成AIと人間（華房）の共同で作成しました。

